

2025年3月期 第2四半期決算説明会

1. 第2四半期決算の概要（連結）
2. 通期の業績見通し
3. 当社の経営戦略

2024年11月11日

日本光電工業株式会社

証券コード：6849

<https://www.nihonkohden.co.jp>

Fighting Disease with Electronics



NIHON KOHDEN

1

第2四半期決算の概要(連結)

1) 当第2四半期の決算概要

	前第2四半期 累計 (2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)				(単位: 百万円、単位未満切捨て)
		期初予想	8月2日 修正予想	実績	対前年同期 増減率(%)	
売上高	103,536	104,000	102,000	102,784	△ 0.7	
国内売上高	65,708	-	-	66,243	0.8	
海外売上高	37,828	-	-	36,541	△ 3.4	為替影響除く: △12% (為替・前年同期決算期変更影響※除く: △6%)
売上総利益 (売上総利益率)	52,005 50.2%	-	-	51,906 50.5%	△ 0.2	自社品 2023/9 2024/9 売上高比率: 72.9% → 71.5%
営業利益 (営業利益率)	7,491 7.2%	7,000 6.7%	3,000 2.9%	5,114 5.0%	△ 31.7	販管費: 445億円 → 467億円 販管費率: 43.0% → 45.5%
経常利益	12,546	7,000	3,000	2,139	△ 82.9	為替差損益 差益4,866百万円 → 差損3,327百万円
親会社株主に帰属する 中間純利益	7,997	4,500	1,500	463	△ 94.2	【特別損失】事業再編費用: 182百万円
平均レート	(2023/9)			(2024/9)		
1 米 ド ル	139.6円			153.6円		
1 ユ ー ロ	153.3円			166.3円		

※前連結会計年度において、米国子会社再編に伴い、デフィブテック社の決算日を12月31日から3月31日に変更しています。前中間連結会計期間は、2023年1月1日から2023年9月30日までの9ヵ月決算を連結しています。

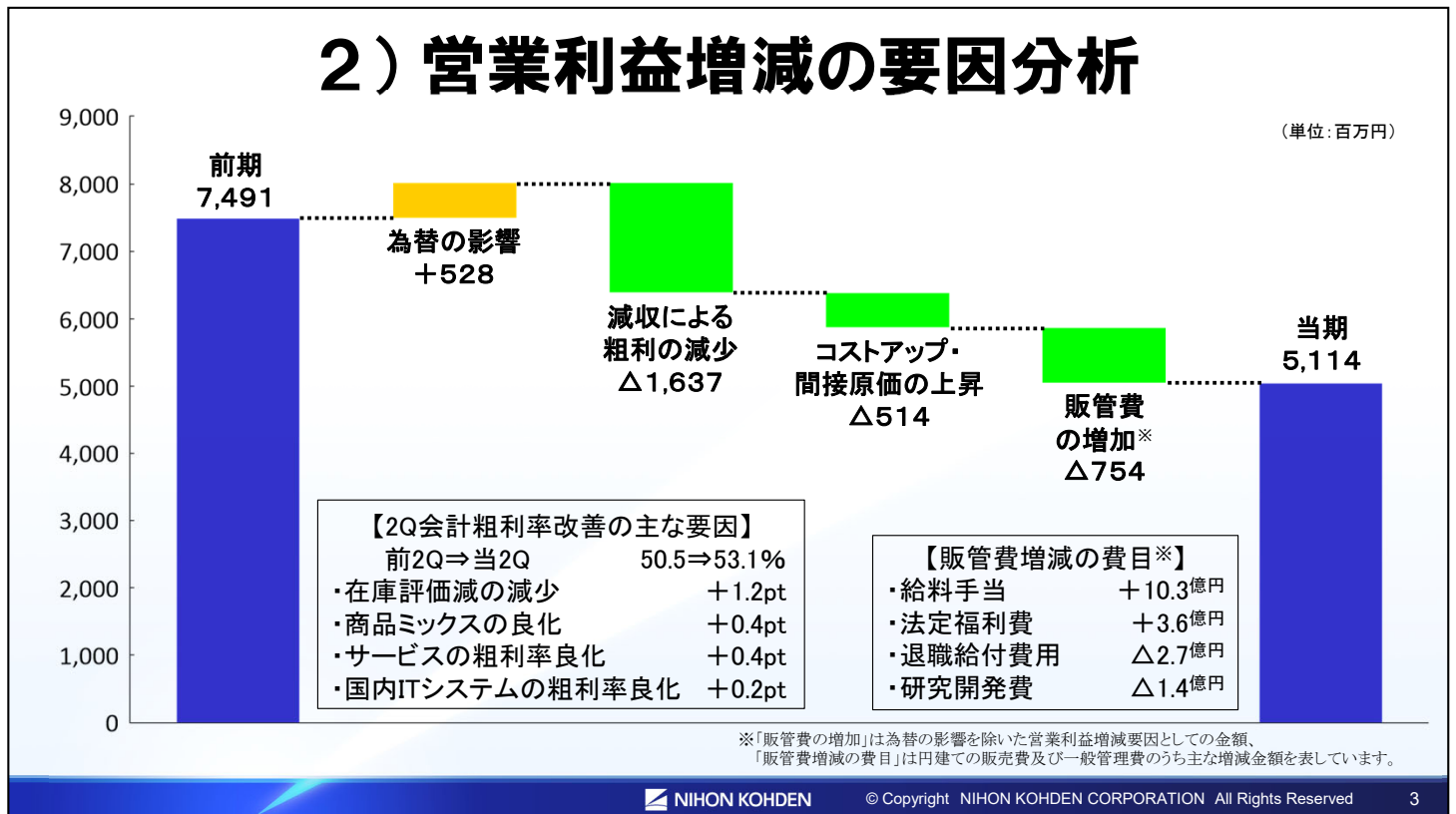
NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2

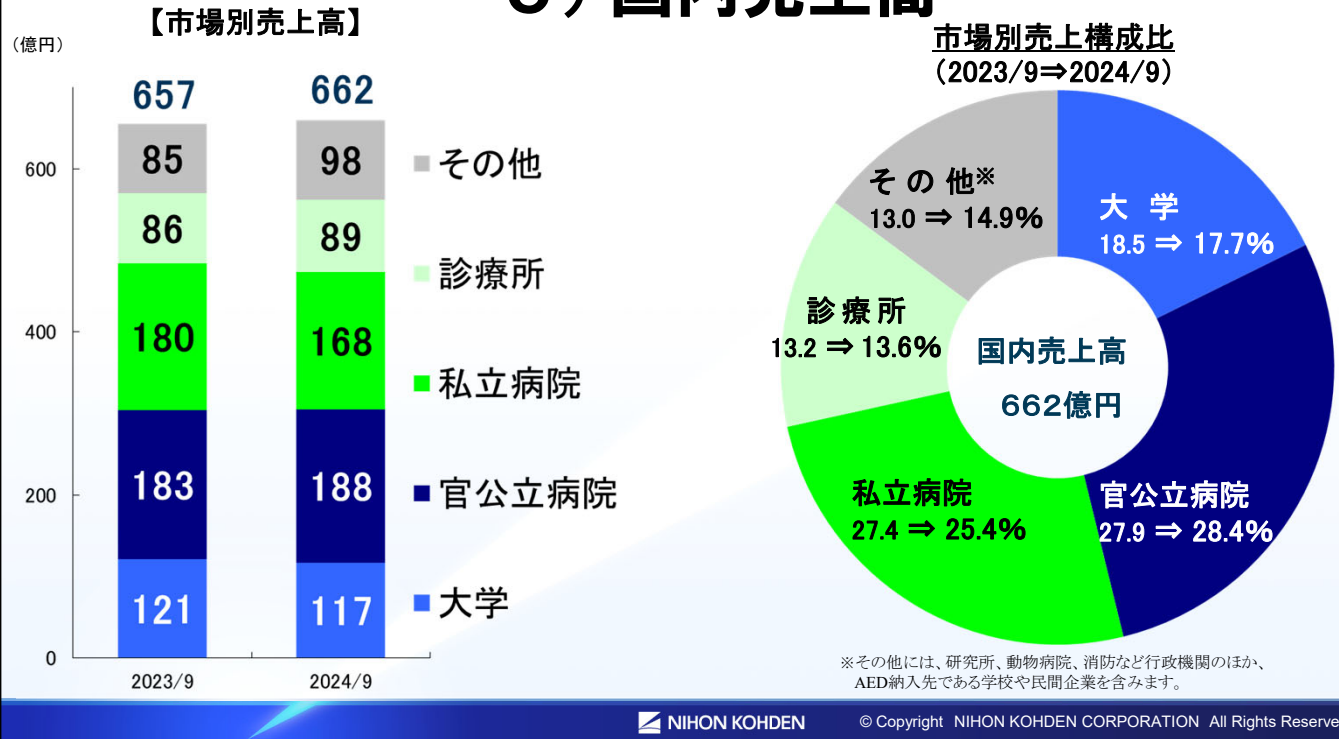
- 売上高は、0.7%減の1,027億円となりました。
国内売上高は0.8%増の662億円、海外売上高は3.4%減の365億円、現地通貨ベースでは、12%の減少となりました。為替と前年同期の決算期変更の影響を除くと、6%の減少となりました。
- 営業利益は31.7%減の51億円、経常利益は為替差損益が差損に転じたことから、82.9%減の21億円となりました。また、中国での医療機器の需要低迷に伴い、上海光電の事業再編費用等の特別損失を計上したことから、純利益は94.2%減の4億円となりました。
- 8月の修正予想に対しては、売上高は、国内ではAEDや消耗品・サービスが好調だった一方で、海外ではアジア州他が想定を下回って推移した結果、全体で7億円上回りました。営業利益につきましては、売上に加え、粗利率が想定を上回ったことから、21億円上回りました。

2) 営業利益増減の要因分析



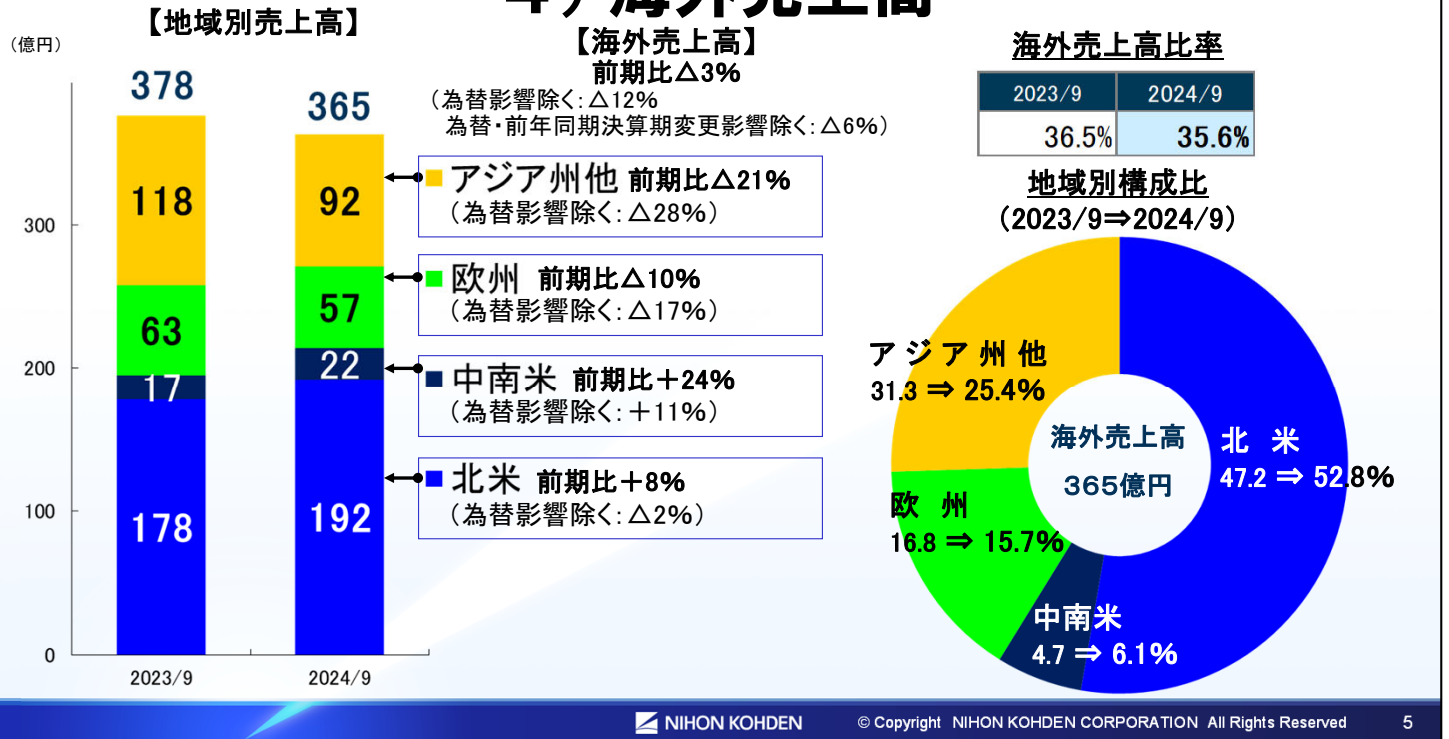
- 営業利益が、前期の74億円から51億円に減少した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、5億円のプラス要因となりました。
- 減収による粗利の減少は、16億円となりました。
- 導入品や部材のコストアップ・間接原価の上昇により、5億円のマイナス要因となりました。
- 販管費は、人員の増強や賃上げ対応に伴う人件費の増加により、7億円のマイナス要因となりました。
- 第2四半期会計期間では、在庫評価減の減少や商品ミックスの良化等により、粗利率を改善することができました。

3) 国内売上高



- 国内売上高は、5億円増の662億円となりました。
- ITシステムは大口商談の受注もあり好調だった前年同期から反動減となった一方、注力している消耗品・サービス事業の売上が伸長しました。
- 市場別では、大学、私立病院市場は前年同期を下回りましたが、官公立病院、診療所市場が堅調に推移しました。PAD市場でのAEDの販売も好調でした。

4) 海外売上高



- 海外売上高は、13億円減の365億円となりました。
- 前年同期の米国子会社再編に伴うデフィブテック社の決算期変更の影響に加え、中国を中心にアジア州他が低調だったことから、減収となりました。
- 北米は14億円増の192億円、現地通貨ベースでは2%減少しました。AEDは減収となったものの、生体情報モニタ、人工呼吸器が好調に推移しました。
- 中南米は5億円増の22億円、現地通貨ベースでは11%増加しました。メキシコ、ブラジルを中心に二桁成長となりました。
- 欧州は6億円減の57億円、現地通貨ベースでは17%減少しました。ドイツ、トルコは増収となりましたが、オランダ、イギリスを中心にAEDが減収となりました。
- アジア州他は26億円減の92億円、現地通貨ベースでは28%減少しました。中国、中近東・アフリカが好調だった前年同期を下回りました。

5) 商品群別売上高

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減率 (%)
生体計測機器	22,329 (45%)	21,474 (40%)	△ 3.8
生体情報モニタ	37,989 (62%)	38,478 (64%)	1.3
治療機器	25,367 (43%)	24,444 (42%)	△ 3.6
その他	17,849 (44%)	18,387 (46%)	3.0
売上高合計	103,536 (50%)	102,784 (51%)	△ 0.7

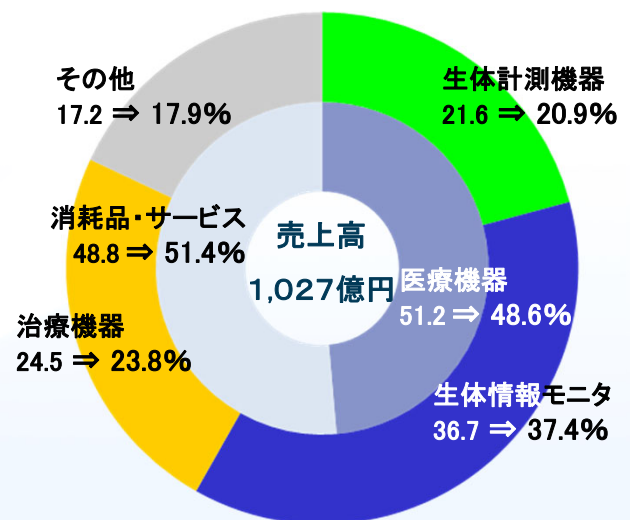
(ご参考)

医療機器	52,989 (51%)	49,966 (52%)	△ 5.7
消耗品・サービス	50,547 (50%)	52,818 (50%)	4.5

※ 表の括弧内は、売上総利益率を示しています。

(単位:百万円)

商品群別売上構成比
(2023/9⇒2024/9)



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。
- 生体情報モニタ、その他商品群が増収となった一方、生体計測機器、治療機器が前年同期を下回りました。
- 消耗品・サービスは、4.5%増の528億円となりました。国内、海外ともに、消耗品・サービス事業に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 商品群別の粗利率は、ご覧のとおりです。

5.1) 生体計測機器

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減率(%)	(単位: 百万円)
脳 神 経 系 群	4,915	4,760	△ 3.1	
心 電 計 群	3,156	3,025	△ 4.2	
心臓カテーテル検査装置群	8,521	8,690	2.0	
診 断 情 報 シ ス テ ム 群	3,056	2,296	△ 24.9	
そ の 他 ※	2,679	2,701	0.8	
生 体 計 測 機 器 合 計	22,329	21,474	△ 3.8	
う ち 国 内 売 上 高	16,924	16,659	△ 1.6	
う ち 海 外 売 上 高	5,405	4,814	△ 10.9	

※その他には、他社製の生体計測機器を含みます。

診断情報システムが大幅増収となった前年同期からの反動減。脳神経系群は二桁成長となり、心電計群も好調。心臓カテーテル検査装置群は堅調に推移。
脳神経系群、心電計群ともに、中国を中心にアジア州他で減収。



脳波計
EEG-1290



筋電図・誘発電位
検査装置 MEB-2300



心電計
ECG-3250



ホルター心電計
RAC-5000



臨床用ポリグラフ
RMC-5000



医療介護ネットワーク
システム LAV-1000



筋弛緩 EMG電極
NM-34シリーズ

消耗品関連

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7

- 「生体計測機器」は、全体で3.8%減の214億円となりました。
- 国内は、1.6%減の166億円となりました。診断情報システムが大幅増収となった前年同期からの反動減となりました。一方、脳神経系群は、筋弛緩モニタリング用の筋電図電極が売上をけん引し、二桁成長となりました。心電計群も好調に推移し、心臓カテーテル検査装置群は堅調でした。
- 海外は、10.9%減の48億円となりました。脳神経系群、心電計群ともに、中国を中心にアジア州他で減収となりました。

5.2) 生体情報モニタ

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減率(%)
生体情報モニタ合計	37,989	38,478	1.3
うち臨床情報システム群	2,955	1,822	△ 38.3
うち国内売上高	21,412	20,630	△ 3.7
うち海外売上高	16,577	17,847	7.7

(単位:百万円)

臨床情報システムが大幅増収となった前年同期からの反動減。ベッドサイドモニタも減収。医用テレメータ、送信機は好調に推移。

北米、中南米、欧州で二桁成長。アジア州他では、前年同期に好調だった中国を中心に減収。



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 「生体情報モニタ」は、全体で1.3%増の384億円となりました。
- 国内は、3.7%減の206億円となりました。臨床情報システムが大幅増収となった前年同期を下回り、ベッドサイドモニタも減収となりました。一方、医用テレメータ、送信機は好調に推移しました。
- 海外は、7.7%増の178億円となりました。北米、中南米、欧州で二桁成長となりました。アジア州他では、前年同期に好調だった中国を中心に減収となりました。

5.3) 治療機器

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減率(%)
医科向け除細動器	3,690	3,890	5.4
A E D	14,174	11,495	△ 18.9
ペースメーカー・ICD	1,258	1,258	0.0
人工呼吸器	2,597	3,769	45.1
その他	3,646	4,030	10.5
治療機器合計	25,367	24,444	△ 3.6
うち国内売上高	12,981	14,648	12.8
うち海外売上高	12,385	9,795	△ 20.9
(参考) AED販売台数	81,700台	54,700台	△ 33.0
うち国内販売台数	24,200台	29,500台	21.9

(単位: 百万円)

【国内】消防機関で更新商談の受注により好調に推移。
【海外】中南米、欧州で前年同期を上回る。

【国内】更新需要が回復、消耗品も好調に推移し、二桁成長。
【海外】前年同期のデフィブテック社の決算期変更影響に加え、各地域の代理店で在庫調整もあり減収。

【国内】消耗品・サービスが前年同期を上回る。
【海外】北米でマスク型人工呼吸器が大幅増収。アジア州他も好調に推移。

【国内】アブレーションカテーテルが好調に推移。



除細動器
EMS-1052



オートショック
AED-3250



心臓ペースメーカー
Zenex MRI



人工呼吸器
NKV-550/440/330

AsisTIVA



全静脈麻酔支援シリンジポンプ
制御ソフトウェア ROP-1680



自動心臓マッサージ
装置 RMU-N2000

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 「治療機器」は、全体で3.6%減の244億円となりました。
国内は12.8%増の146億円、海外は20.9%減の97億円となりました。
- 医科向け除細動器は、国内で消防機関の更新商談を受注し好調に推移したほか、海外も中南米、欧州で前年同期を上回ったことから、5.4%増の38億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で54,700台、売上は18.9%減の114億円となりました。
国内では、更新需要が回復したほか、消耗品も好調に推移し、二桁成長となりました。海外では、前年同期の決算期変更の影響に加え、各地域の代理店で在庫調整もあり、減収となりました。
- 人工呼吸器は、45.1%増の37億円となりました。国内では、消耗品・サービスが前年同期を上回りました。海外では、北米でマスク型人工呼吸器が大幅増収となり、アジア州他も好調に推移しました。
- その他治療機器は、アブレーションカテーテルが好調に推移し、10.5%増の40億円となりました。

5.4) その他

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減率(%)	(単位: 百万円)
検体検査装置	6,122	6,516	6.4	
画像診断装置他※	11,727	11,871	1.2	
その他合計	17,849	18,387	3.0	
うち国内売上高	14,389	14,304	△ 0.6	← 現地仕入品が減収。医療機器の保守サービスは好調に推移し、検体検査装置・試薬も堅調。
うち海外売上高	3,459	4,083	18.0	← 検体検査装置・試薬が欧州、中南米で二桁成長。

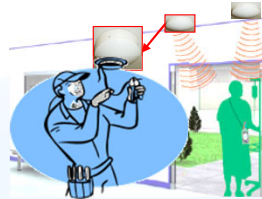
※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。



全自動血球計数器
MEK-9200



全自動血球計数・
赤血球沈降速度測定装置
MEK-1305



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

10

- 「その他商品群」におきましては、全体で3%増の183億円となりました。
- 国内は、0.6%減の143億円となりました。自社品販売の注力により、現地仕入品が減収となりました。医療機器の保守サービスは好調に推移し、検体検査装置・試薬も堅調でした。
- 海外は、18%増の40億円となりました。検体検査装置・試薬が、欧州、中南米で二桁成長となりました。

6) 財政状態

(単位: 百万円)

	前期末 2024/3	当第2四半期末 2024/9	増減額		前期末 2024/3	当第2四半期末 2024/9	増減額
流動資産	184,333	167,891	△ 16,442	流動負債	49,901	40,092	△ 9,809
棚卸資産	57,787	55,950	△ 1,836	有利子負債	579	477	△ 102
有形固定資産	25,418	25,960	541	固定負債	2,249	2,122	△ 126
無形固定資産	4,852	5,203	351	純資産	181,082	176,385	△ 4,697
投資その他資産	18,628	19,545	916				
資産合計	233,233	218,600	△ 14,633	負債・純資産合計	233,233	218,600	△ 14,633
棚卸資産回転月数	6.3ヵ月	6.1ヵ月		自己資本比率	77.6%	80.7%	
【流動資産の減少の理由】 受取手形及び売掛金 △147億円 現金及び預金 △20億円				【流動負債の減少の理由】 支払手形及び買掛金 △30億円 未払法人税等 △26億円 未払金 △19億円			

- 財政状態につきましては、受取手形および売掛金の減少等により、総資産が146億円減少し、2,186億円となりました。
- 棚卸資産につきましては、在庫管理が奏功し、回転月数は6.1ヵ月となりました。

7) キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	増減額
I 営業CF	9,488	7,888	△ 1,600
II 投資CF	△ 2,874	△ 3,366	△ 491
FCF	6,614	4,521	△ 2,092
III 財務CF	△ 3,553	△ 5,034	△ 1,481
換算差額	2,114	△ 672	△ 2,786
増減額	5,175	△ 1,185	△ 6,360
期末残高	49,163	48,692	△ 471

	2023/9	2024/9	増減
税金等調整前中間純利益	12,545	1,908	△10,637
為替差損益(益:△)	△3,152	2,346	+5,499
売上債権の増減額(増加:△)	9,445	14,143	+4,698
仕入債務の増減額(減少:△)	△6,635	△2,337	+4,298
法人税等の支払額	△2,829	△5,362	△2,532

	2023/9	2024/9	増減
自己株式の取得による支出	△0	△2,306	△2,305
配当金の支払額	△3,445	△2,602	+843

【自己株式の取得予定】

取得期間:2024年8月5日～2025年3月31日

取得価額:100億円(上限)

- 期末残高は、前期末から11億円減少し、486億円となりました。
- 今期は100億円を上限とする自己株式の取得を進めており、9月末までの取得価額は合計で23億円です。

8) 設備投資と研究開発費

(単位: 百万円)

	前第2四半期 累計(2023/9)	当第2四半期 累計(2024/9)	2024/3 前期実績	2025/3予想	
				期初	11月7日修正
設備投資額	2,006	3,341	4,978	10,300	10,300
減価償却費	1,684	1,925	3,704	4,500	4,400
研究開発費	3,327	3,186	6,996	7,500	7,400

●2025/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

PLM/MES※システムの導入 設備投資額: 約30億円 < 23/3: 3億円、24/3: 5億円
25/3: 11億円、26/3: 11億円

PLM/MES: 2026/3稼働予定

鶴ヶ島新工場の建設

総投資額: 約110億円 < 23/3: 23億円(土地取得)
~25/3: 41億円、26/3~: 46億円
(建屋・設備等)

着工: 2024年7月 完成: 2025年末
稼働開始: 2026年予定



※イメージ図

※PLM(Product Life-cycle Management): 製品ライフサイクル管理、MES(Manufacturing Execution System): 製造実行システム。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

13

- 設備投資は33億円、減価償却費は19億円、研究開発費は31億円となりました。
- 通期の設備投資に変更はありません。
上期の進捗を踏まえ、減価償却費は44億円、研究開発費は74億円に見直しました。

2

通期の業績見通し

1) 経営環境

欧米では金融政策が緩和傾向も、地政学リスクもあり景気先行きは不透明
インフレや人件費の上昇による医療機関の経営への影響を引き続き注視

国内

医療従事者の確保、働き方改革の推進

- 2024年6月 診療報酬改定:本体+0.88%増
賃上げのため基本料等を引上げ、
医療DX・感染症対策、タスクシフトの推進

地域包括ケアシステムの深化、 医療機能の分化・強化、連携

- 地域医療介護総合確保基金 2024年度1,029億円(医療)

2024年4月からの働き方改革により、医療従事者の確保が課題、医療機関の経営悪化が顕在化

海外

欧米諸国

- 米国では医療機関の経営が改善傾向、
医療機器の設備投資に回復の兆し
- 医療DX・医療IT需要の高まり
- 人工呼吸器市場からの海外企業の撤退

新興国

- 中国で反腐敗運動や景気減速の影響
- 各国で保護主義の動き
- 医療機器に関する規制強化への対応

- 欧米では金融政策が緩和傾向にあるものの、地政学リスクもあり、景気の先行きは不透明な状況で推移しています。
- 国内では、4月からの働き方改革、6月の診療報酬改定を受け、医療従事者の確保が課題であり、医療機関の経営悪化が顕在化しています。
- 海外では、米国において、医療機関の経営が改善傾向にあり、医療機器の設備投資に回復の兆しが見られます。一方で、中国においては、反腐敗運動が長期化しているほか、景気減速の影響を注視する必要があります。

2) 通期の業績見通し

	2024/3 前期実績	2025/3予想		増減率 (%)
		期初	11月7日修正	
売上高	221,986	229,000	227,000	2.3
国内売上高	142,370	147,000	147,000	3.3
海外売上高	79,615	82,000	80,000	0.5
売上総利益 (売上総利益率)	111,346 50.2%	118,000 51.5%	116,300 51.2%	4.4
営業利益 (営業利益率)	19,591 8.8%	23,000 10.0%	20,500 9.0%	4.6
経常利益	25,589	23,000	18,000	△ 29.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,026	16,000	12,000	△ 29.5
海外売上高比率	35.9%	35.8%	35.2%	
平均レート				
1 米 ド ル	143.9円	140円	149円	
1 ユ ー ロ	156.8円	150円	160円	

(単位:百万円)

為替影響除く: △3%
為替・前期決算期変更影響除く: ±0%

【地域別海外売上高】

	2024/3 前期実績	2025/3予想		増減率 (%)
		期初	11月7日修正	
北 米	37,058	38,100	40,400	9.0
中 南 米	6,039	5,200	5,200	△ 13.9
欧 州	13,104	12,400	12,000	△ 8.4
アジア州他	23,413	26,300	22,400	△ 4.3
海 外 計	79,615	82,000	80,000	0.5

(下期)

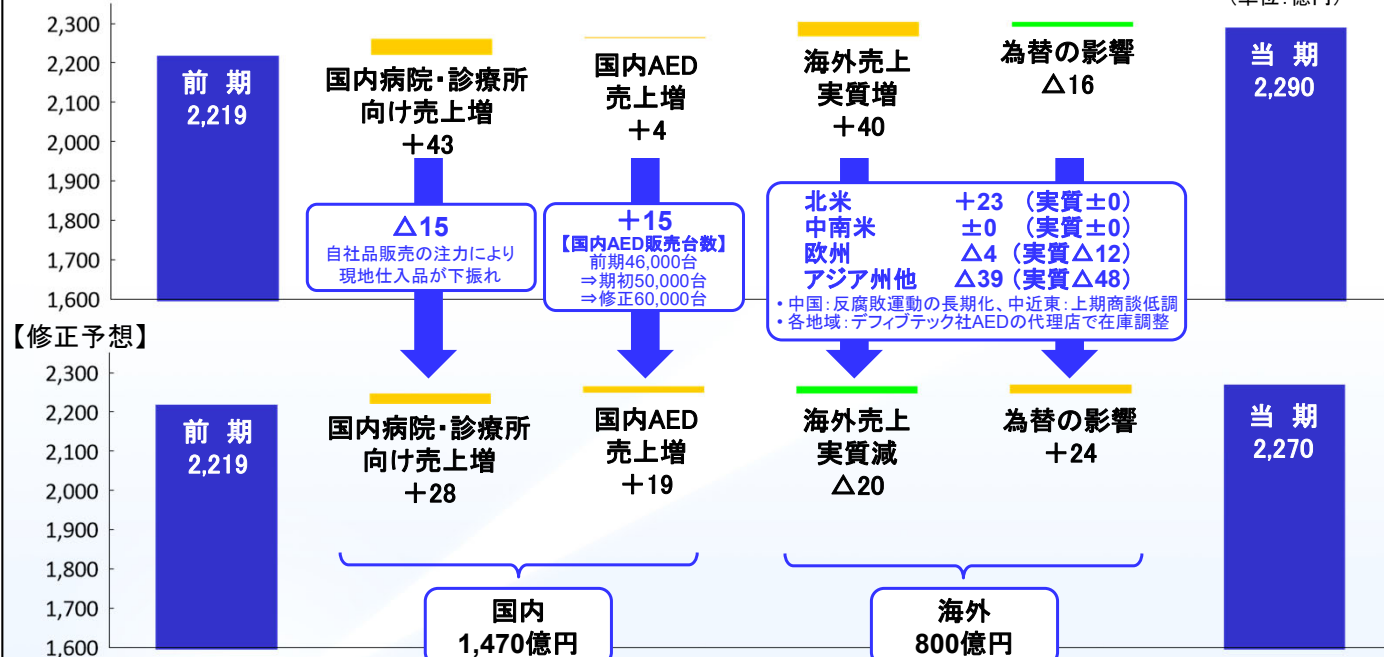
145円
155円

- 通期の業績見通しにつきましては、上期の実績と最近の業績動向を踏まえ、見直しました。
- 連結売上高は前期比2.3%増の2,270億円、国内売上高は3.3%増の1,470億円を見込んでいます。海外売上高は0.5%増の800億円、為替と前期の決算期変更の影響を除くと、前期並みを見込んでいます。
- 国内売上高は期初予想を据え置き、海外売上高は期初予想から20億円減少する見通しです。
- 営業利益につきましては、4.6%増の205億円、期初予想からは25億円の減少を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。
- 売上高、利益ともに下期での回復を見込みますが、期初予想を下回った上期を補うには至らないと見ています。
- 下期の為替の前提につきましては、ドルは145円、ユーロは155円としています。

3) 売上見通しの要因分析

【期初予想】

(単位: 億円)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

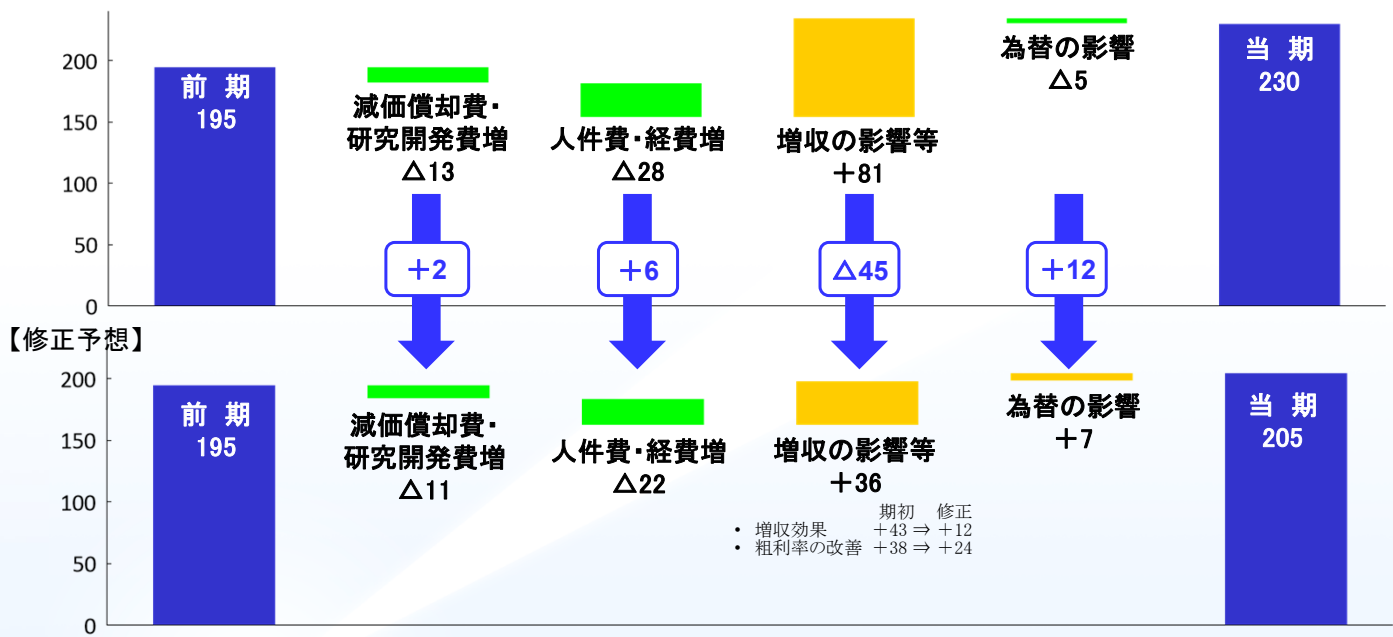
17

- 国内の病院・診療所向けは、自社品販売に注力し、現地仕入品が想定を下回る見込みであることから、28億円の増加に見直しました。需要が好調なAEDの通期売上は19億円の増加、販売台数は6万台に見直しました。
- 海外売上高は、20億円の実質減、為替は24億円のプラス影響を見込んでいます。期初予想に対して、北米が23億円の上振れ、欧州が4億円、アジア州他が39億円の下振れと見込んでいます。
- 為替影響を除く実質ベースでは、中国、中近東・アフリカおよびデフィブテック社のAEDの見通しを下方修正しました。一方、北米の生体情報モニタと人工呼吸器は期初の想定を上回る見込みです。

4) 営業利益見通しの要因分析

【期初予想】

(単位: 億円)



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

18

- 減価償却費・研究開発費は11億円の増加、人件費・経費は22億円の増加に見直しました。
- 増収の影響等は、36億円に見直しました。売上が期初の想定を下回る見込みですが、引き続き、国内外で自社品の販売に注力するとともに、全社収益改革の取り組みを推進します。
- 為替は7億円のプラス影響と見ています。

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

	2024/3	2025/3予想			増減率(%)
	前期実績	期初	11月7日修正	構成比(%)	
生体計測機器	46,517	47,900	46,900	20.7	0.8
生体情報モニタ	84,130	87,200	86,900	38.3	3.3
治療機器	51,665	53,200	53,200	23.4	3.0
その他	39,673	40,700	40,000	17.6	0.8
売上高合計	221,986	229,000	227,000	100.0	2.3

(参考)

医療機器	115,638	117,900	114,700	50.5	△ 0.8
消耗品・サービス	106,347	111,100	112,300	49.5	5.6

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.9億円	1.2億円
ユーロ	0.6億円	0.2億円

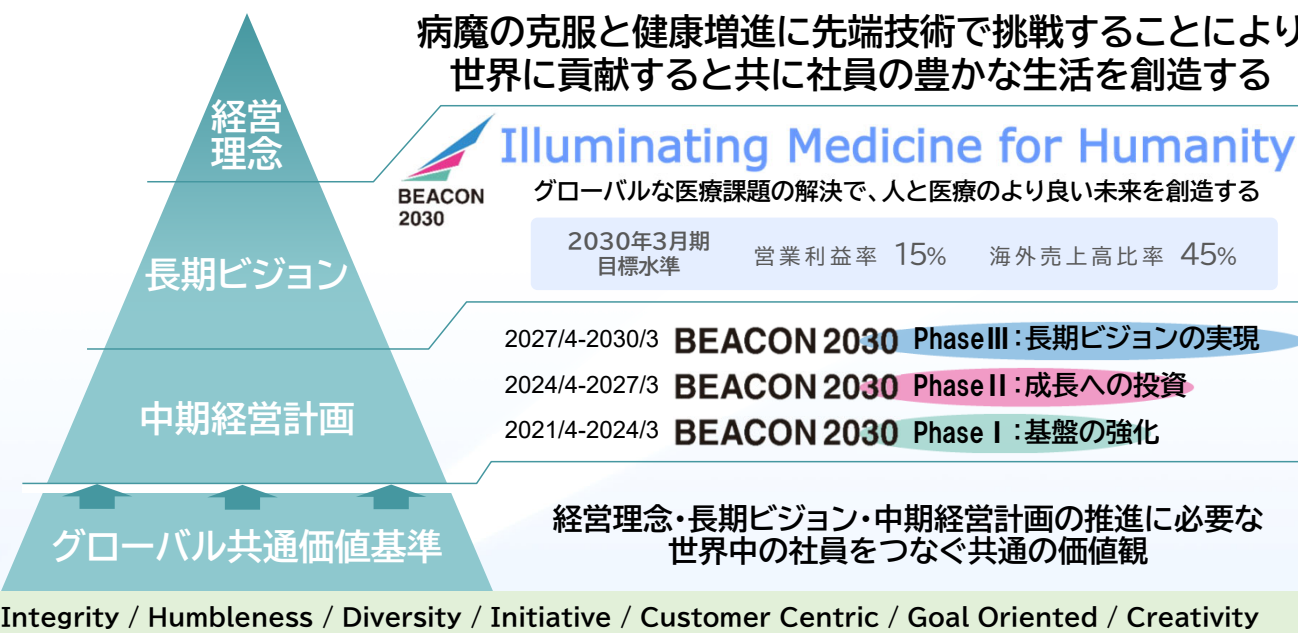
- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績をふまえ、修正しました。
- 国内、海外ともに、引き続き、消耗品・サービスの提案強化に取り組めます。
- 為替感応度はご覧のとおりです。

3

当社の経営戦略

長期ビジョンと中期経営計画

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより
世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

21

- 日本光電は2030年に向けた長期ビジョン「BEACON 2030」において、「グローバルな医療課題の解決で人と医療のより良い未来を創造」することを目指しています。
- 2024年度からスタートした3カ年中期経営計画は、長期ビジョンを実現するための第2フェーズです。

中期経営計画 3つの指標・6つの重要施策

全社収益改革を実行することで、成長領域への投資を本格化し、
グローバルメドテック企業への変革を加速

①成長性

売上高CAGR
(24/3-27/3期)

5%

製品競争力
の強化

北米事業の成長
に注力

②収益性

営業利益率 (27/3期)

15%

全社収益改革
の実行

グローバルサプライチェーン
の進化

③資本効率性

ROE (27/3期)

12%

日本光電版ROIC
の導入

キャッシュ・コンバージョン・
サイクルの短縮

サステナビリティ経営の実践

医療課題

環境課題

社会課題

- 中期経営計画では、全社収益改革を実行することで、成長領域への投資を本格化し、グローバルメドテック企業への変革を加速します。
- 「成長性」「収益性」「資本効率性」の3つの指標を掲げ、「製品競争力の強化」「北米事業の成長」「全社収益改革の実行」など6つの重要施策に取り組めます。

2025年3月期発売の主な新製品

生体情報モニタリング事業

セントラルモニタ
CNS-2101

2021年度3Q：日本
2023年度3Q：米国
2024年度：
新興国、欧州（予定）

ミドルローエンド
ベッドサイドモニタ BSM-5700

2024年度3Q：欧州、新興国
日本（予定）

- ✓ BSM-3000の後継機種
- ✓ 中小病院の手術室向け
- ✓ 120時間5波形のレビューデータを保存可能



治療機器事業

人工呼吸器
NKV-440

米国開発・
生産

2022年度4Q：一部新興国
2024年度2Q：米国

医科向け除細動器
TEC-1000

2024年度2Q：日本、新興国

- ✓ バイタルサインのモニタリング機能を充実
- ✓ 機器のメンテナンス、管理業務の負荷軽減に貢献



ソリューション事業(ITS+DHS)

遠隔ICUソリューション
RemoteSense

米国開発

2024年度1Q：米国、**2Q：**機能追加

- ✓ 複数医療機関の患者さんのバイタルサインをWebで閲覧可能
- ✓ サブスクリプションで提供

患者容態把握ダッシュボード
ソフトウェア QH-101N

2024年度2Q：日本

- ✓ 2025年1月から月額利用料制で提供予定
- ✓ バイタルサインから早期警戒スコアを演算・表示
- ✓ 院内RRS※1を支援



※ 許認可申請の審査期間等によって、各国での実際の発売時期は異なります。

※1 RRS（Rapid Response System）：院内迅速対応システム。
入院患者さんの容態急変の兆候を捉えて対応する体制。

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

23

- 製品競争力の強化に向けては、ご覧の新製品を相次いで投入しました。
- 生体情報モニタリング事業では、ミドルローエンドのベッドサイドモニタを欧州、新興国で上市しました。
- 治療機器事業では、米国で、人工呼吸器の中位機種モデルを発売し、3機種のラインアップがそろったことから、販売活動を強化しています。また、医科向け除細動器の新機種を、日本、新興国で発売しました。
- ソリューション事業では、複数の医療機関の患者さんのデータをWebで閲覧できる遠隔ICUソリューションを米国で発売しました。サブスクリプションで提供を始め、すでに複数施設で採用いただいています。
日本では、患者容態把握ダッシュボードソフトウェアを来年1月から月額利用料制で提供する予定です。患者さんの容態急変に迅速に対応し、医療安全の向上、業務効率の改善に寄与するソリューションとして期待しています。

日本：顧客価値提案の高度化による顧客基盤の強化と持続的な成長

- ✓ オートショックAEDの販売先限定が解除、AED20周年記念イベントに協賛、小学館「幼稚園」の付録作成
- ✓ 医科向け除細動器 **TEC-1000**、DHS製品 **患者容態把握ダッシュボードソフトウェア QH-101N**を発売
- ✓ 6月からサービス料金を見直し、下期から製品・消耗品の販売価格を見直し

北米：大手IDN/GPO市場、DoD/VA市場※1深耕によるブランド認知度向上と収益改革

- ✓ 脳神経機器： **Ad-Tech社の子会社化を発表**（2024年9月、株式取得実行は2024年11月中予定）
- ✓ 生体情報モニタ： DHS製品 **遠隔ICUソリューション RemoteSense**をサブスクリプションモデルで提供開始
- ✓ 人工呼吸器： 中位機種モデル NKV-440を発売、大手IDNからNKV-330の大口商談を獲得
サイバーセキュリティ要件などの充足により、**DoDからATO※2を獲得**（2024年8月）

その他の海外：医療機器に関する法規制対応、現地開発・生産・販売・サービス体制を強化

- ✓ 中国： 医療機器の需要低迷に伴い、販売・サービス部門を再編（2024年9月）
- ✓ インド： **検体検査試薬の新工場が本格稼働開始**（2024年9月）、医療機器の生産準備に着手
- ✓ 東南アジア： **ベトナムに販売子会社を設立**（2024年5月）、フィリピン・タイで自社による許認可取得を推進

※1 IDN（Integrated Delivery Network）：総合医療ネットワーク、GPO（Group Purchase Organization）：グループ購買組織。
DoD（Department of Defense）：米国国防総省、VA（Veterans Affairs）：米国退役軍人省。※2 ATO（Authority to Operate）：運用認定。

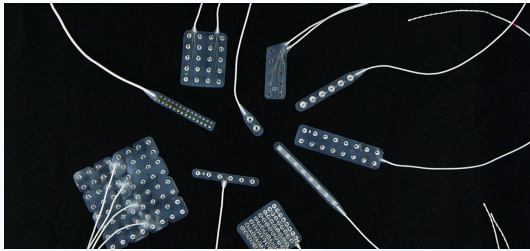
- 日本では、7月からオートショックAEDの販売先の限定が解除されたほか、AED20周年記念を受けて、改めてAEDの重要性が認知され、需要の増加につながっています。また、先ほどご紹介した新製品の投入に加え、6月からサービス料金の見直し、下期から製品・消耗品の販売価格の見直しを進めています。
- 北米では、9月にAd-Tech社の子会社化を発表しました。需要が高まる人工呼吸器については、大手IDNからNKV-330の大口商談を獲得したほか、サイバーセキュリティ要件を満たしたことから、米国国防総省の運用認定を獲得しました。今後の商談機会の拡大を期待しています。
- その他の海外では、中国における需要低迷に伴い、販売・サービス部門を再編しました。インドでは、検体検査試薬の新工場が本格稼働し、医療機器の生産体制の整備を進めています。東南アジアでは、ベトナムに販売子会社を設立、フィリピン、タイで自社による許認可取得を進めています。

**米国Ad-Tech（アドテック）社の
親会社 NeuroAdvanced Corp.の株式71.4%の取得を発表**

（2024年11月中予定）

Ad-Tech Medical Instrument Corporation

- 本社： 米国ウィスコンシン州
- 設立： 1983年
- 代表者： Brian P. Smith (CEO)
- 事業内容： 医療機器の開発、製造、販売
- 売上高： \$28M, 営業利益:\$2.8M（2023年度）
- 取得価額： 約160億円
（概算、アドバイザー費用等含む）



- **主な製品（消耗品）：**
難治性てんかんの外科治療に用いられる
深部電極や硬膜下電極など頭蓋内電極
- **日本光電との関係：**
Ad-Tech社製品の日本における独占販売権を保有、
30年以上にわたり国内の医療機関に提供

- 日本光電の**脳神経機器と高い親和性**
- 侵襲的な検査・治療に使われる消耗品の
技術・生産ノウハウの獲得により、**HMI※技術を強化**
- **売上成長・安定収益を確保**

※ HMI（Human Machine Interface）：人間と機械との接点。当社の場合、センサ技術、信号処理技術、データ解析技術の総称。

- 米国のAd-Tech社は、難治性てんかんの外科治療に用いられる頭蓋内電極を世界60カ国以上に販売しています。当社は日本での独占販売権を有しており、30年以上にわたって医療機関に提供してきました。
- 当社の脳神経機器と高い親和性があり、侵襲的な検査・治療に使われる電極の技術・生産ノウハウを獲得することで、当社のHuman Machine Interface技術を強化します。また、消耗品ポートフォリオの拡充により、売上成長や安定収益の確保につながります。
- 株式取得は11月中を予定しています。

収益性		全社収益改革の実行		
領域	テーマ	施策の内容（例）	改革目標値	25/3期上期の進捗状況
商品ミックス	営業プライシング	✓ 国内外で価格政策の見直し	2%程度	✓ 国内で製品・消耗品の販売価格を見直し（25/3期下期～） ✓ 出荷数量が少ない自社の消耗品を中心に販売中止
	製品ラインアップの整理	✓ 品目数の見直し、適正化 ✓ 自社品売上高比率の向上		
生産性	人員生産性の向上（含む生成AI）	✓ 生成AI導入による業務の効率化：140万時間/年 ✓ コア業務への集中、リソースの再配置：90万時間/年 ✓ 人員増の抑制、残業時間の削減	2%程度	✓ 生成AI：2,000ライセンスを導入 ✓ 製品QAチャットボットの運用開始 ✓ 総合技術開発センタでエネルギー管理システムを導入 ✓ 社用車、複合機、通信機器等の契約を見直し
	経費の削減	✓ 光熱費・賃借料・通信費などインフラ費用の削減、旅費交通費の見直し		
サプライチェーン	部品調達最適化	✓ サプライヤーとの価格交渉の高度化 ✓ Value Analysis/Value Engineeringの推進	1%程度	✓ インフレの影響がある中、価格交渉を継続中
収益性		グローバルサプライチェーンの進化		
		✓ PLM/MES※システムの導入を推進（稼働開始：2026/3期） ✓ インド 検体検査試薬の新工場が本格稼働開始 （2024年9月） ✓ 鶴ヶ島新工場の建設（着工：2024年7月、完成：2025年末、稼働開始：2026年）		
		※PLM（Product Life-cycle Management）：製品ライフサイクル管理、MES（Manufacturing Execution System）：製造実行システム。		
		 		
		インド 検体検査試薬 新工場		
		© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved		

- 全社収益改革に向けては、3つの領域に取り組んでいます。
- 商品ミックスでは、国内において、下期から、製品・消耗品の販売価格を見直します。また、出荷数量が少ない自社の消耗品を販売中止するなど、品目数の見直しを進めています。
- 生産性の向上に向けては、生成AIの2,000ライセンスを導入したほか、製品QAチャットボットの運用を開始しました。経費の削減に向けては、エネルギー管理システムを導入し、社用車や複合機、通信機器などの契約を見直しました。
- サプライチェーンについては、インフレの影響がある中、サプライヤーとの価格交渉を継続しています。グローバルサプライチェーンの進化に向けては、PLM/MESシステムの導入を進めています。鶴ヶ島の新工場については、7月に着工し、2026年の稼働開始に向けて順調に進捗しています。

資本効率性

日本光電版ROICの導入

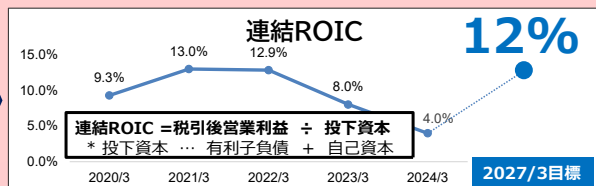
✓ 役員・部門長向けにROIC勉強会を開催、動画配信 (2024年度2Q)

- 医用電子機器関連の単一事業のため、個社（個別部門）単位で管理
- B/S外の研究開発・人件費（直近3年間）を将来投資と見なし、中長期的視点で効果測定
- 個社別ROICの把握、社内浸透を図る

日本光電版ROIC 計算式

$$\text{ROIC} = \frac{\text{営業利益}}{\text{投下資本 (将来投資※ + 売掛金 + 在庫 + 固定資産 - 買掛金)}}$$

※直近3年間の研究開発費・人件費

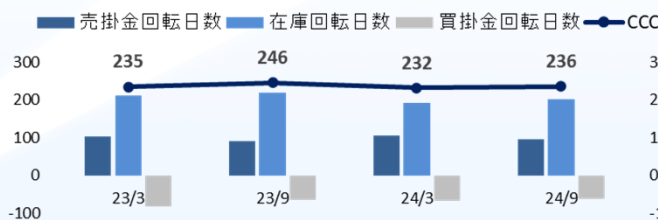


Phase IIでは資本コストを7%と保守的に設定、IRR12%目標

資本効率性

キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮

- ✓ 生産本部を新設（2024年4月）、調達・生産管理機能を強化
- ✓ PSI（生産・販売・在庫）管理の高度化を進め、製品・部品在庫は計画どおり削減
- ✓ 債権回収の早期化



2025/3目標

~190日

Phase II 目標

~175日

中期目標

~150日

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

27

- 資本コストを意識した経営の実践に向けては、日本光電版ROICの導入に着手しました。P/Lにおける収益性の改善に加え、B/Sでの資本効率の改善が課題です。個社単位のROICを把握し、社内浸透を図るため、役員・部門長向けの勉強会を開催しました。
- キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮に向けて、4月に新設した生産本部を中心に在庫管理を強化しています。生産・販売・在庫管理の高度化を進めており、9月末時点での製品・部品在庫は計画どおり減少傾向にあります。引き続き、在庫削減と債権回収の早期化に注力します。

Phase I 3年間累計目標	3年間累計実績
 AED販売台数 ：35万台以上（国内・海外、3年間累計）	32.4万台（進捗率92%）
 搭載機種販売台数 ：85,000台以上（国内・海外、3年間累計）	95,000台（進捗率112%）
 接続機種数 ：7機種以上、 接続台数 ：5,000台以上（国内・海外、3年間累計）	3機種（進捗率 43%） 1,911台（進捗率 38%） ※ 機種数の算出方法を見直し
 環境配慮型製品売上比率 ：20%以上（3年間累計）	19.4%
CO₂排出量 ：2023年度売上高原単位にて15.2%削減 （ISO 14001認証範囲内のScope 1, 2）	45.8%削減 （2020年度比）

https://www.nihonkohden.co.jp/sustainability/nk_sustainability/materiality.html

医療課題

✓ **インドネシア 新生児蘇生率向上**に向け、現地医師を日本に受け入れ（2024年7月）

環境課題

✓ **Green Product Label**の認定を開始（2024年3月）

✓ TCFD提言に基づく情報開示に**事業インパクト評価を追加**（2024年10月）



社会課題

✓ **税務方針**を策定・公開（2024年9月） ✓ **製品セキュリティの取組み**を公開（2024年10月）

- サステナビリティ経営の実践では、ご覧のとおり、Phase Iでのマテリアリティ・KPIの実績を開示しました。
- 医療課題の解決に向けては、インドネシアにおける新生児の蘇生率向上に向け、現地医師が日本で研修を受ける制度に協力しています。
- 環境課題の解決に向けては、自社の製品・サービスについて、Green Product Label（グリーンプロダクトラベル）の認定を開始したほか、TCFD提言に基づく情報開示に事業インパクト評価を追加しました。
- 社会課題の解決に向けては、税務方針および製品セキュリティの取組みを公開しました。

売上高CAGR5%、営業利益率15%、ROE12%の達成を目指す

	24/3期実績	27/3期目標
売上高	2,219億円	2,560億円
国内	1,423億円	1,570億円
海外（海外売上高比率）	796億円（35.9%）	990億円（38.7%）
消耗品・サービス売上高比率	47.9%	50%
自社品売上高比率	73.5%	75%
ソリューション売上高比率※	11%	11%
売上総利益率	50.2%	53%
営業利益（営業利益率）	195億円（8.8%）	385億円（15%）
親会社株主に帰属する当期純利益	170億円	250億円
ROIC	4.0%	12%
ROE	9.8%	12%

※ソリューション事業に加え、ソフトウェア・プログラム医療機器、保守サービス品等を含む。

地域別売上高			
	売上高		CAGR
	24/3期実績	27/3期目標	
日本	1,423億円	1,570億円	3%
北米	370億円	500億円	11%
中南米	60億円	60億円	0%
欧州	131億円	140億円	2%
アジア州他	234億円	290億円	7%

商品群別売上高			
	売上高		CAGR
	24/3期実績	27/3期目標	
生体計測機器	465億円	530億円	4%
生体情報モニタ	841億円	980億円	5%
治療機器	516億円	630億円	7%
その他	396億円	420億円	2%

投資計画		
	Phase I 実績	Phase II 計画
設備投資	162億円	250億円程度
研究開発投資	189億円	235億円程度

※ 想定レート：1米ドル＝140円、1ユーロ＝150円。

- 2027年3月期の経営目標値はご覧のとおりです。

資本政策の方針

健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けて投資、株主還元を充実

①将来の企業成長に向けた投資 Phase II： 研究開発投資 235億円程度 設備投資 250億円程度 成長投資・M&A 300億円以上	・生体情報モニタ、人工呼吸器、デジタルヘルスソリューションに積極投資 ・鶴ヶ島新工場の建設、PLM/MESシステムや生成AIなどコーポレートDXの推進、グローバルサプライチェーンマネジメントの進化のために設備投資
	研究開発  設備投資  成長投資 M&A  人財育成 
②株主還元の充実 Phase II： 280億円以上 ※投資計画の進捗によっては追加の株主還元も検討	配当 業績の伸長に応じ、安定的な増配 25/3期 年間配当金 31円（予想） （連結配当性向：43.0%） 自己株式取得 今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施 自己株式取得： 100億円（～25/3月） うち 23億円（～24/9月） 目標：連結総還元性向 35% 以上 自己株式保有： 433万株（24/9末：2.5%）
③健全な財務基盤	医療機器の安定供給体制を確保するため、強固な財務基盤を維持

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

30

- 資本政策につきましては、ご覧のとおりです。
- 株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置付けています。
- 利益の配分については、健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けた投資と株主還元の充実を図ることを基本方針としています。
優先順位については、i) 研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など将来の企業成長に向けた投資、ii) 株主還元、としています。
- 株主還元の目標は、連結総還元性向35%以上としており、業績の伸長に応じて、安定的な増配を行うとともに、自己株式の取得は、今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施します。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003